

2018(平成30)年度事業報告書

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会

2019年3月発行

1. 目的

我が国の都市部を除くあらゆる地域では、少子高齢化や労働人口の流出により夫婦あるいは親子だけの単一世代あるいは独居の世帯が増加した。これに伴い世代間での共助や相互扶助の精神、あるいはその実践が著しく低下し、地域における人口構成の歪みや雰囲気の高さ、不安を拡大している。経済状況の好転や雇用創出による労働人口の増加を待つばかりではなく、地域に暮らす者にとっての安心感を醸成するためには住民相互の信頼感や一体感を高めることが喫緊の課題である。この解決にあたっては、これから社会を担う子供達ばかりではなく、周囲で起居する大人達も、経済的な価値ばかりではなく、地域の自然の豊かさを体感することなどで郷土意識を育み、多様な価値観を共有あるいは認め合うことが肝要である。そこで広がりをもった近所付き合いの復活と世代間の交流や共助を推進することを目指して、帯広川の水辺を学校教育を含む生涯学習や地域住民の交流の場として活用する。特に、自然豊かな帯広川を継続的に維持・管理するには公的な取り組みばかりではなく、個人個人の日常的な行動が大きく影響することを理解して自助・共助の精神や行動を活発化させる。

2. 計画および実績

体験学習等で川において活動を行う場合は、まず参加者の安全確保に努めた。すなわち子供の安全を担保する大人の人数や用具数から参加人数の上限を設けて実施することとした。主な実施場所は、会議や講演会などは公共的な施設である西十号会館で、川での体験学習では子供を含む参加者が安全に移動できる範囲の帯広川で実施した。実施に当たっては、NPO、民間企業、子どもの水辺北海道地域拠点センター等の協力を得、さらに北海道開発局帯広開発建設、北海道十勝総合振興局帯広建設管理部、帯広市都市建設部管理課・市民活動部市民活動推進課・教育委員会にはご指導を頂くとともに要に応じて報告を行うこととした。

2018年度は、学校教育支援や勉強会および河川活動として水質・生物調査、河川清掃、河川環境保全などを行い、延べ約956名(前年1,250名、他組織主催事業も含む)が参加した。

今年度の事業実績を時系列で示したのが表2.1である。

2.1 学校教育(水辺体験学習)支援

これまで開西小学校では1年生から5年生までの児童が帯広川で体験学習を行ってきた。しかし、初等教育において英語やプログラミングなどの教科の多様化による授業時間の確保や弊協議会の運営委員の高齢化などを事由として、今年度からは4、5年生については帯広川での体験学習を行わないこととした。

当初計画では、9回、帯広川体験学習を行うこととしていたが、雨天・低温等で複数回中止となったが、帯広川での延べ参加人数は、子供 224 名、大人 189 名、計 413 名だった。

園児・児童には、川に親しむことと同時に川に内在する危険を理解、体感できるように指導した。また、安全確保を担う大人および教員等に対しては、水棲生物の特性や川の水質との関係などを考える契機を提供するとともに自らが暮らす地域の自然の豊かさを認識するよう努めた。また、帯広川の地理的ば特性や水質あるいは生息生物などについては要に応じて専門家から知見を得、またウチダザリガニやブラウントラウトなどの外来生物や漁業権が設定されているサケ、ヤマメ等についても学んだ。

帯広川での水辺体験学習支援

- | | | | | |
|---|-----------|----------|------------|-------|
| ① | サケ稚魚放流 | 4月28日(土) | 子供14、大人27名 | (写真1) |
| ② | 帯広幼稚園 | 7月17日(火) | 子供28、大人18名 | |
| ③ | 開西小学校3年生 | 7月23日(月) | 子供39、大人25名 | (写真3) |
| ④ | 開西小学校1年生 | 7月24日(火) | 子供56、大人29名 | (写真4) |
| ⑤ | つばさ保育所 | 7月27日(金) | 子供17、大人23名 | |
| ⑥ | トムテのいえ保育所 | 8月04日(土) | 子供15、大人33名 | |
| ⑦ | 開西小学校2年生 | 8月23日(木) | 子供37、大人20名 | |

2.2 勉強会等

① サケ稚魚の飼育管理 (2017年10月29日から2018年4月28日まで)

さけ・ます増殖事業協会から供与された親サケを用いて採卵・人工授精、さらに孵化させたサケの稚魚を開西小学校で飼育、展示した。月に2回程度、生育状態の調査および水質等の管理を行うとともに学校からの要請により問題の解決にあたった。

② 体験学習「サケの稚魚放流会」(再掲、写真1)

4月28日(土)13時から、開西小学校および西21新興町内会との共催。
13:00開西小学校、14:00帯広川河畔。子供14、大人27名が参加した。開西小学校の水槽で成長した稚魚の体長、生体重を計測後、放流会場まで冷却しながら運搬し、サケの生態や川の役割、水棲生物にとって山や岸辺の植物等が物質循環の中で重要な役割を果すことなどを説明した後に参加者全員で稚魚を帯広川に放流した。

③ 体験学習「第17回クリーンウォークとかち in 札内川」 5月12日(土)10時から(札内川、7名参加)

概要：クリーンウォークとかち実行委員会主催。河川愛護の啓発と実践を目的として企業、団体等が実行委を組織して、毎年、帯広市内の札内川河川敷で実施している。43団体・個人、計約700人が参加、午前9時半から北愛国交流広場で開会式が行われ、伊豆倉米郎副実行委員長が「ごみを捨てない、捨てさせないを目標に、札内川の環境を維持していきたい」と挨拶。参加者は4グループに分かれ、愛国大橋を中心に約2キロの範囲を1時間半かけて清掃した。弊会からは7名が参加した。昼食を兼ねた懇談会では、ジンギスカン鍋を囲みながら河川管理者、建設・土木企



業、金融機関、NPOの方々とは勝の河川に関する現況や課題について意見交換を行うとともに懇親を深めた。

④ サケ人工受精体験会 (写真6)

開西小学校・弊会共催、一般社団法人十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会(増殖協)後援。
10月29日(月)午前10時から開西小学校理科室で、授業の一環として実施した。

元さけ・ますセンター帯広所長の石垣章氏がサケの受精の仕組みなどを解説した後、子供にサケの魚体を触れさせた。次いで、メスから卵子を取り出し精子を振りかけ、希望者が静かに手で混ぜさせてから帯広川の水を少量入れて受精を完了させた。直ちに受精卵を開西小学校に設置した水槽へ移した。その後、サケの内臓について説明し、子供は積極的に心臓やエラ等に触れながら質問をしていた。親サケの身は、サケのフレークに加工し希望者に配付した。開西小学校の菅沼教頭は、「小学校単独で、このような体験会を行うのは困難だが、種々の協力によって可能となった。生物の学習でインパクトのある良い体験ができた」、また野中校長は「今回の体験授業のように地域社会が子供の教育に関わって頂くことの意義は深く、多様な専門性を有する地域の方々が初等教育においても活躍して頂きたい」と語った。生涯学習の重要性が叫ばれてから久しいが、今回のような活動は多様な経験や認識を世代を超えて共有することに繋がる良い契機と考えられた。

⑤ 第11回「いい川・いい川づくりワークショップ」

2018年11月30日～12月2日、十勝川温泉ホテル大平原・とまちプラザ、いい川・いい川づくり実行委員会主催、国交省などが後援。

この会は川づくりの取り組みに関係する団体等が、日頃の活動について発表するもので、全国36団体が参加した。道内では初開催で、十勝からは12団体が発表を行い、十勝多自然ネット、帯広工業および農業高校などが上位入賞した。弊会は、水害避難訓練についての発表を行い技術賞を受賞した。(写真6)



写真は十勝毎日新聞に掲載された発表会の様子。

<https://kachimai.jp/article/index.php?no=449581>

⑥ 講演「十勝の観光文化検定特別セミナー」

2019年1月26日(土)午後1時30分～4時30分、帯広経済センタービル6階研修室。十勝の観光文化検定試験(とまち検定)は、十勝の魅力の再発見と地域の歴史・文化の伝承、さらには観光振興を目的としている。公式テキストの編集にも参画した弊会の会長が、十勝の川の特徴や現状および検定試験に関わるセミナーの講師を依頼され実施した。

2.3 河川活動

河川活動は、学校教育支援等の実施場所である帯広市西21条南2丁目付近の帯広川右岸約1.5kmを中心として行った。なお、他組織が主催する行事等においては十勝管内の十勝川や札内川の本流および支流で清掃活動等を実施した。

① 水質・生物調査

- ・ 帯広川分流堰付近を観測地点として「濁り」と「臭い」を官能的に評価し、あわせて川の水面の写真撮影を行った。なお、水質に問題があると判断された際には、簡易水質検査（パックテスト）を行った。その結果、4月上旬から12月までに、数回、一過性で水質の悪化が認められた。河川管理者（北海道）に通知するとともに関係機関（帯広市、報道機関）へ水質改善に関する取り組みの推進を要望した。（写真8日）
- ・ 4月から11月上旬まで生物の生息調査を行ない、魚類では、ドジョウ、ウグイ、ヤマメ、虹鱒、ブラウントラウトの生息が確認された。なお、本年はウチダザリガニ約90匹、ブラウントラウト11尾を駆除した。（写真9）

② 河川清掃

- ・ 帯広市河川一斉清掃（5月13日）に呼応し西21新興町内会とともに帯広川で実施した。（写真）
- ・ 十勝川および札内川のゴミ拾いをそれぞれ2回行った。
- ・ 弊会役員による帯広川の定期的なゴミ拾いは、月1回を基本とし、4月から11月までの間に計9回実施した。



③ 河川環境整備（写真5）

- ・ 河川敷公園（西21条南2丁目）北側の帯広川排出口周辺部の親水広場の整備を行った。6月5日から11月6日までの間に7回、延41名で実施した。なお、この排出口周辺の環境整備は、今年度、帯広市都建設部みどりの課所掌の「帯広を緑と花で美しくする運動実行委員会」緑の募金緑化活動配分金の交付を受け実施した。
- ・ 帯広川堤防天端通路において散歩などで利用する者の危険を防止するために、倒木や棘を有する雑木（ニセアカシア）やイラクサの除去を2回、延9名で実施した。



2.4 会議等

① 役員会：会長、副会長、事務局長、会計およびその他で構成し、原則、毎月開催して、帯広川の環境保全や安全対策等について検討した。さらに年次・人材育成計画の評価および中長期計画の策定等を行った。今年度は持ち回り会議を含めて17回開催した。

② 事業・会計監査および総会：監査は4月19日（木）午後2時から、総会は5月9日（水）午後6時から両者ともに西十号会館で開催した。総会では2017年度の事業・会計報告、今年度の事業・会計および役員案等を審議した。その結果、全てが提案どおりに承認された。また、今年度の学校教育支援について幼稚園および小学校からの要望を受け、実施原案を役員会で作製することとした。総会終了後には運営委員の他に北海道開発局、十勝総合振興局および治水関係者が参加して懇談会を行い、親睦を深めるとともに帯広川の治水や防災および環境保全等について意見交換を行った。

③ 懇談会：協議会運営委員相互および協力を頂いている組織・団体の方々との情報交換および

親睦を図るために5回実施した。その他、他組織主催の懇談会にも積極的に参加した。

- ・ 4月19日、監査終了後に開催。総会の議題、進行等を検討した。
- ・ 5月9日、総会終了後に開催。今後の事業や財務について意見交換を行った。
- ・ 8月30日、今年度の帯広川教育支援活動を総括するために開催。21名参加。河川関係者および一般の方を含めて川の利活用や課題について意見交換を行った。

2.5 その他

- ・ 全国水環境マップ実行委員会主管の水質検査を6月に実施、結果を報告した（継続）。
- ・ ウチダザリガニ防除のための「かごによる採捕許可」を環境省から取得（～平成33年3月）。
- ・ 北海道十勝総合振興局主管「とちかエコマエストロ」に就任（継続）。
- ・ 北海道開発局が主管する札内川懇談会委員に就任（継続）。
- ・ 北海道十勝総合振興局主管の「川づくりワーキング」座長に就任（継続）。
- ・ 「かわまちづくり」に関する勉強会を実施（継続）。
- ・ 帯水協が所有する備品等の一覧表を作製して関係機関や地域の方々へ周知した。なお、現状復帰を原則として貸し出しを行うことで備品等の有効活用を図った（継続、14頁）。

3. 総括

今年度も帯広川の水辺を生涯学習や地域住民の交流の場として活用することによって、住民が地域の自然の豊かさを認識し、さらに世代間の交流やご近所付き合いの活発化などにより共助を推進することを目指して活動を行った。自然豊かな帯広川を継続的に維持・管理するには公的な取り組みばかりではなく個人の日常行動が大きく影響することを理解し自助、共助の精神および行動を活発化させることとした。

平成24年度から実施している帯広川排出口周辺の親水広場の環境整備を引き続き行った。十数年間放置され荒れ放題の水辺を、地域住民の自助、共助によって安全で快い広場とした。すなわち、散策路、川面への接近路の雑草処理、釣り場の整備・安全確保を弊会が自主的、主体的に企画・実施した。今年度は帯広市都建設部みどりの課所掌の「帯広を緑と花で美しくする運動実行委員会」緑の募金緑化活動配分金の交付を受け実施した。

帯広市立開西小学校の児童（1～3年生）および教員が帯広川を訪れて水辺の体験学習を行った。児童は、帯広川で非日常的な体験を行い、川の危険性（深場がある、浅くとも流れが速い、水温が変化する等）や生き物の多様性（ザリガニ、ドジョウ、ウグイ、昆虫等の捕獲）について体感したと思われる。また、地域の自然は豊かであるが危険（蜂、蛇、ニセアカシア、イラクサ等）が内在することも理解したものである。

帯広川や地元で採取した生き物を食べることは、食全般や生物学に関わる知識が向上することにつながり、さらに地域の自然の豊かさを体感し郷土愛が育まれるばかりではなく、食に関わる先人の知恵を学ぶ好機と捉えている。今年度もウチダザリガニ（駆除のために捕獲）や帯広川排出口付近で自生する蔞、セリおよびミツバを採取して安全性を確認後、子供を含む希望者で賞味した。また、この地域に生息する駆除対象の生物（ウチダザリガニ、ブラントラウト、虹鱒、ミンク）は、全て食用等で人が移入したものであることを説明すると、子供ばかりではなく大人も驚嘆していた。このように身近な自然体験は、環境、エネルギー、経済などの現代社会が抱える諸問題を、食べるという本能的な行為から考える良い契機になると思われる。

サケの人工孵化・飼育事業を引き続き実施した。この事業は一般社団法人十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会の後援によって実現することができ、ここに増殖事業協会に対して深甚なる謝意を表す。地域教育（家庭教育と学校教育の間を場とする教育）や生涯学習の重要性が叫ばれて久しいが、今回の事業は多様な専門性を有する方々や組織が連携して行った教育効果の非常に高い事業である。十勝で暮らす方々がサケの生態や食材としての特性を意外なほどに知識が少なく、子供とともに大人が真剣に学んでいる姿が印象的であった。このように全ての参加者が共通の感動を同時に体験することは、世代や組織間あるいは参加者同士の隔たりを超えて、相互認識の促進や信頼感の醸成に繋がり、ひいては安心・安全な地域づくりに貢献するものと考えられた。また、十勝の特産品であるサケやシシャモの生態、利用の歴史あるいは食材としての特性を正しく理解、把握する方が増加することは、漁業や食産業ばかりではなく観光事業や情操教育にも貢献するものと考えられる。すなわち、海と川を行き来する生物の戦略、産卵後に個体の生涯を終えること、母川回帰や孵化した日を記憶して遡上すること等、不思議が一杯であり、人間の生涯と比較すれば多くの示唆に富んだ物語が生まれそうな予感がする。地域の特産加工食品や観光においては歴史に裏打ちされた非日常的な快い物語が求められている。

これまで弊会では、市民が帯広川流域全体を持続的に活用するために、帯広市の内閣府認定「環境モデル都市」計画の中に位置付けられる「かわまちづくり協議会」（仮称）の設置が必要と考え、その設立のために「かわまちづくり」勉強会を行ってきた。帯広市を東西に横断する帯広川の流域全体を一体的に考えるための組織を民産学官の連携で立ち上げることを企図したが、帯広市が理解を示さないことから発展的に解散した。しかし、弊会を含む民間組織との間では、以下の目標を共有して活動を継続している。

①市の中心部から集積した住宅地である西部地区を繋ぐ遊歩道あるいはサイクリングロードとして帯広川堤防天端等を車道と完全に分離した形で活用する。これは②火災や震災時の避難路および水害時の土嚢等の設置あるいは貯蔵場所としても活用し得る。③日常の草刈、清掃などの点検・維持活動は、河畔の町内会等の地域主体で行い、あわせて水質の異常や危険箇所などを河川管理者へ通報することとし、さらに④河畔林は「帯広の森」計画の回廊部分として位置づけて市民の憩いの場として活用を図るものとする。これらを具体化するために、NPO、任意団体および河川管理者等との勉強会を行った。これからも種々の会合などで、これらについて議論を深めたい。

弊会は設立9年目となり、日常の活動は比較的安定的に実施できるようになってきた。しかし、事業遂行に当たっては、特に川での活動や支援において安全確保が最重要であり、事故がないよう努めた。また、多くの役員が居住する町内会と開西小学校の校区の方々を主な対象として活動しているために、事業やその遂行が慣習化することを戒めている。

このように、弊会が安定した組織運営と事業遂行が可能だったのは、運営委員を初めとして、ご協力を頂いた方々の絶大な支援の賜物と深謝している。また、河川管理を担う国土交通省北海道開発局および北海道十勝総合振興局には、日頃の河川活動に対して丁寧なご指導を頂いた。これまでに公益財団法人河川財団および一般社団法人北海道土木協会から助成を得られたことによって事業基盤を整備することができた。また、帯広信用金庫や十勝毎日新聞社を、はじめとする地域の企業、団体および個人から多大な支援を頂戴した。ここに記して深甚なる感謝の意を表す。なお、今後、弊協議会は、町内会などを含む民間団体、企業および行政機関等との連携を強化して持続的な財務体質を構築し、さらに若い人材の発掘・教育にも努力する所存である。

表2.1 2018(平成30)年度事業実績

20180401~20190331

月	日	曜日	事業等	参加者	場所等
4	1	日	役員会・資源回収	17	事務局、河川敷公園
	5	木	帯広川視察	2	帯広川
	6	金	サケ飼育水槽管理	4	開西小
	9	月	開西小入学式参列	1	開西小
	13	金	サケ飼育水槽管理	2	開西小
	17	火	打合せ会(開西小)	4	開西小
	18	水	サケ稚魚放流(約120尾)	2	開西小→帯広川
	19	木	会計監査	6	西十号会館
	26	木	帯広川河畔林伐採視察	8	帯広川・振興局
28	土	サケの稚魚放流会(約260尾)	41	開西小・帯広川(小14、大21名)	
5	9	水	総会(定期運営委員会)、懇談会	43	西十号会館
	10	木	役員会(傷害保険契約等)	4	事務局
	12	土	クリーンウォークin札内川	7	札内川
	13	日	全市一斉河川清掃	19	帯広川
	14	月	MP0多自然ネット総会	4	アパホテル
	20	日	役員会	8	西十号会館
	24	木	帯広川視察	3	帯広川
	31	木	札内川懇談会	2	帯広開発建設部
	6	3	日	環境整備(清掃)	14
9		土	役員会(体験学習打合せ)	5	事務局
12		火	事業報告書報告書発送	2	事務局
14		木	帯広川生物調査	2	帯広川
18		月	帯広川水質調査	2	帯広川
24		日	環境整備(資源回収)	9	帯広川河川敷
7	1	日	役員会	8	西十号会館
	10	火	体験学習支援 帯広幼稚園(降雨、低温で中止)	2	帯広川
	11	水	体験学習支援 帯広幼稚園(降雨、低温で中止)	3	帯広川
	13	金	体験学習支援 帯広幼稚園(降雨、低温で中止)	2	帯広川
	14	土	役員会	3	事務局
	17	火	体験学習支援 帯広幼稚園	46	帯広川
	23	月	体験学習支援 開西小3年	64	帯広川
	24	火	体験学習支援 開西小1年	85	帯広川
	27	金	体験学習支援 つばさ保育所	40	帯広川
	27	金	札内ダム湖生物調査	4	札内ダム(帯広開発建設部)
28	土	体験学習支援 子供会	32	帯広川河川敷公園	
8	4	土	体験学習支援 トムテ	57	帯広川
	6	月	帯広川生物調査	3	帯広川
	8	水	役員会	5	事務局
	23	木	体験学習支援 開西小2年	57	帯広川
	24	金	川づくりワーキング打合せ	6	振興局
	27	月	とちか検定試験部会	1	帯広経済センター
30	木	川体験支援反省会(川祭り)	21	帯広川、西十号会館	
9	2	日	帯広川清掃、役員会	11	帯広川、事務局
	4	火	川づくりワーキング打合せ	18	振興局
	6	木	北海道胆振大地震 対策会	6	事務局
	11	火	川づくりワークショップ打合せ	3	大谷短期大学
	13	木	役員会	8	西十号会館
	20	水	サケ人工受精体験会打合せ	4	開西小学校
	26	水	帯広川排出口付近の環境整備	7	帯広川排出口付近
	27	木	川づくりワーキング視察	21	振興局、帯広川、居辺川等
10	1	月	役員会	5	西十号会館
	3	水	帯広川排出口付近の環境整備	6	帯広川排出口付近
	9	火	市役所訪問	2	市役所みどりの課
	14	日	拡大役員会	23	西帯広コミセン
	18	木	サケ人工受精体験会準備	4	開西小
	29	月	サケ人工受精体験授業	57	開西小
11	2	金	役員会	3	事務局
	19	月	帯広川視察	2	帯広川
	22	木	水槽管理(サケ受精卵の視察等)	3	開西小
	14	火	帯広川視察	2	帯広川
	30	金	十勝管内の河川視察(いい川づくりWS)	5	十勝川、札内川、帯広川 エコパ等
12	1	土	いい川づくりワークショップ	3	十勝川温泉ホテル大平原(約150人)
	2	日	いい川づくりワークショップ	8	とちかプラザ(約100人)
	6	木	水槽管理(サケ受精卵の視察等)	3	開西小
	11	火	川づくりワークショップ打合せ	2	振興局
	19	水	とちか検定試験部会	1	商工会議所
	23	日	役員会	7	西十号会館
	25	火	水槽管理(サケ受精卵の視察等)	2	開西小
1	6	日	役員会・新年交礼会	26	西十号会館
	15	火	帯広川視察	2	帯広川
	16	水	開西小サケ水槽管理	3	開西小
	26	土	十勝の観光文化検定特別セミナー	1	帯広経済センター 研修室
	30	水	とちか検定試験部会	1	商工会議所
2	10	日	帯広川視察	3	事務局
	14	木	役員会	7	西十号会館
	18	月	開西小サケ水槽管理	3	開西小
	20	水	「川づくりWS」打合せ	2	十勝振総合興局
	24	日	環境整備(資源回収)	11	帯広川河川敷
	25	月	第3回川づくりワーキング	5	十勝振総合興局
3	5	火	役員会	6	事務局
	6	水	札内川懇談会	3	合同庁舎
	9	土	十勝川中流部川づくり報告会	2	とちかプラザ
	20	水	開西小サケ水槽管理	3	開西小
	24	日	役員会(持ち回り; 事業報告取り纏め等)	9	西十号会館
	30	土	帯広川視察	3	帯広川

写真1 サケ稚魚放流会



写真2 帯広市河川一斉清掃に呼応した帯広川のゴミ拾い



写真3



開西小3年生180723
体験会の全景、網で水棲生物を採取
青テントは携帯トイレ



写真4

開西小1年生180724
最下流域で安全確保を
毎回必ず行っている

写真5 帯広川排出口親水広場の環境整備



2018年9月の草刈り



2018年10月の草刈り



堤防天端(遊歩道)の除草剤散布



乾燥させた刈草の廃棄
今後は腐食・堆肥化を行う予定



写真6 サケの人工授精体験会

左上:授業開始時、少し緊張した子供達
 右上:採卵後、精子と帯広川の水を注ぎ、受精完了
 左下:雌雄の親鮭の身を塩漬け、風乾後、乾煎りしてサケのフレークを製造。パック詰めしたもの。
 下段は添付したパンフレット。

帯広協 **鮭**
 since 2010
 帯広川伏古地区
 子どもの水辺協議会
フレーク

10月29日(月)、開西小2年生がサケの人工授精体験学習で使った親サケの身で作りました。この親鮭は「さけ・ます増殖協会」から特別に供与されたもので、勿体無いことが無いようフレークにしました。塩を振り三日間凍干してから加熱殺菌し、小骨を取り除き乾燥にしました。味付けは塩のみ。自己責任でご賞味ください。



要冷蔵 開封後2日程度

12月の受精卵の様子。一部、発眼を確認



「帯広川伏古地区子どもの水辺協議会」

・水辺体験学習

『保育園・幼稚園・小学校の子供たちが、保護者や先生に加え地域の市民や団体と一緒に川で楽しく学び、そして地域社会が活性化することを目標に活動を行っています。』



水生生物の採取
(川の生き物を学びます)



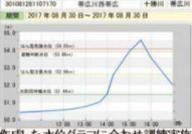
川流れの体験
(楽しく安全な川遊びを学びます)



サケの稚魚放流
(人工授精、飼育から放流まで)

・地域防災活動 『自助と共助による“洪水逃げ遅れゼロ”を目標に、地域住民自ら、民間の団体や企業と連携して避難訓練を行っています。』

観測所の水位に合わせタイムスケジュールを組み、十勝川中流部市民協議会が発信する防災メールを利用しながら、避難訓練を実施しました。



作成した水位グラフに合わせ訓練実施



14時 避難訓練

(14:00) 水防団待機水位
*防災メール受信→総括班第一避難所へ集合

(14:15~30) 氾濫注意水位
*防災メール受信→市から避難準備・高齢者等避難開始の連絡。机上訓練実施



(14:50) 氾濫注意水位
*避難者の救出



(15:03) 避難判断水位
*防災メール受信→市から避難指示(緊急)の連絡。避難所(小学校)へ移動



(15:15) 氾濫危険水位
*防災メール受信→市から避難指示(緊急)の連絡。市へ避難完了の連絡

‘洪水時の生存率を上げる’
これを共有の認識とし地域再編へ！ 向こう三軒両隣：隣保制度



「川に学ぶ自然・環境・経済」

防災キーワード

1. 自助・共助・公助
2. 洪水浸水想定区域図とハザードマップ
- 3-1. 避難準備・高齢者等避難開始
- 3-2. 避難勧告
- 3-3. 避難指示(緊急)

避難行動要支援者の訓練

写真7
いい川・いいかわづくりワークショップ
発表時の配布資料

第11回いい川・いい川づくりワークショップ in 北海道十勝
みんなで考える「いい川」いい川づくり公開選考会

<帯広川>
帯広川伏古地区子どもの水辺協議会
防災活動で育む地域の絆、洪水逃げ遅れゼロ

“いい川”技術賞



上西郷川 写真：吉村 伸一

2018年12月2日
いい川・いい川づくり実行委員会

表彰状

写真8 帯広川取水口付近の水の透明度の調査



6月28日8時頃
枝、枯れ木、ペットボトル、ビニール袋などのゴミが取水口に集まっている。川の水は比較的透明度が高い。



10月26日15時頃
可動堰が上昇。取水口のゴミを撤去した後、透明度が高い帯広川の水。

新聞1

ウツベツ川改修で
植生多様化を報告
道川づくり
ワーキング

北海道管理河川の川づくりワーキングが25日、十勝総合振興局帯広建設管理部で開かれた。

河川整備に関し、発注者の帯広建設管理部と自然環境団体が話し合う場。2015年から始まり、今年度は3回目の開催。帯広建設管理部は砂防事業や改修事業、復旧事業の進捗（しんちよく）状況を説明した。

市内を流れるウツベツ川は、改修工事により、植物が多様に生育する環境になったと報告。帯広厚生病院治いの親水護岸（スロープ、階段の設置）については、今後とも病院側と協議し、可能な範囲で整備を続けることが示された。（中島佑斗）

河川整備の効果などが報告された川づくりワーキング

十勝毎日新聞 2019年2月26日

新聞2

十勝毎日新聞
2019年(平成31年)3月9日(土曜日)

◆第11回札内川懇談会
（石原由美子座長）

6日、帯広第2地方合同庁舎で開かれた。今年度の活動経過の報告や、来年度の活動予定を話し合った。札内川の活用を考えるため開催し、今回が11回目。有識者、行政機関などから13人、傍聴者も含めて33人が出席した。写真。

今年度事業では、札内川の水生動物モニタリングの実施などを報告。来年度の活動計画では、河川清掃、札内川を活用した環境教育活動などに取り組むことを確認した。

神保章生帯広河川事務所長は「今後も意見を基に、魅力ある札内川を生かした地域活性化、河川文化の継承をしていきたい」と話した。

写真9 十勝の魚類（帯広川・札内川ダム湖）



2018年に生息が確認された魚類
左上：ブラウトラウト。ここ数年、生息数が減少し魚体も小さくなっている。
左中：虹鱒。丸みのある魚体。
左下：ウグイ（推定）
右上：ヤマメ。10数センチの魚体。

札内川ダム湖で生息が確認された虹鱒。約54cmの魚体で、昆虫類の捕食を確認した。



帯広川伏古地区子どもの水辺協議会 備品等一覧 20190331

備品等	数	備品等	数
ウエダー(胴長靴)	11	水槽(開西小配置)	2
ハイウエダー	7	同上用ポンプ等	2式
ライフベスト 大人用	15	ポリタンク(20L,10L)	2
ライフベスト 子供用	30	サケ人工孵化器具	1式
同上用 キャリーバック	3	冷却装置	1
ヘルメット(子供用)	30	エンジン刈払い機	2
ドライスーツ	1	同上用安全装置(かるべえ)	1
バスタオル	8	安全フェースマスク	2
救急セット	1	ガソリン携行缶 5L	2
敷材(ブルーシート等)	4セット	ガソリン携行缶 20L	2
アルミテーブル	4	ヘルメット(工事用)	5
ポップアップテント	小2、中1	安全靴	2
ポータブル水洗トイレ	1	草刈サロペット	1
デジタルカメラ	1	一輪車・台車	各1
プリンター	1	カケヤ	1
パソコン	1式	鉋(ナタ)	1
ハンドマイク	2	鎌(クワ)	2
透視度計	2	鎌(カマ)	5
ストップウォッチ	2	フォーク	3
温度計	2	シヨベル(穴あき)	2
実体顕微鏡(開西小配置)	1	鋸	3
視きメガネ	10	剪定鋏	2
虫メガネ	25	刈込鋏(ハサミ)	2
バケツ	20	砥石	2
縮見ルーペ	2	シャープナー	2
バット(白)	8	ツールボックス	1
ポリ手付ビーカー	3	安全ロープ	2
網(大、小)	35	同上用杭	10
ピンセット先曲	20		
パックテスト用専用カップ	20	安全管理ハンドブック	1
脚立	1	自然体験活動指導者ハンドブック	1
空気入れ	1	まさかの時の生き残り塾	1
ポリカゴ	2	アウトドアで遊ぶ学ぶ	1

ご入用の物品等がございましたら、いつでもお貸しますので事務局へお尋ね下さい。